

今の新発田川は汚れている

◆実は、私たちの生活と関係が深い

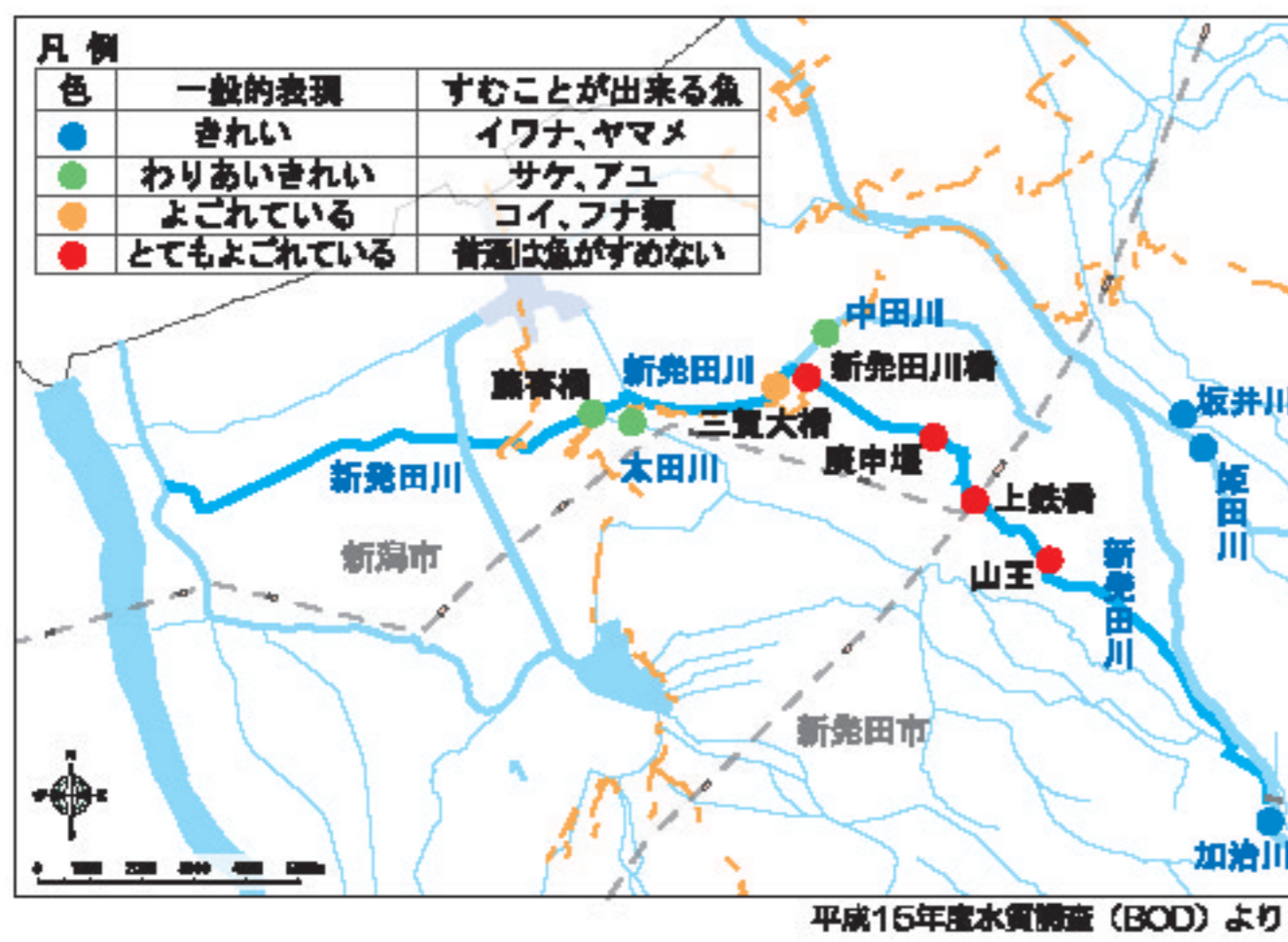
新発田市周辺では、新発田川水系のほか、坂井川、姫田川、加治川などの主要河川で水質調査が行われている。

BOD（生物化学的酸素要求量）の測定結果を見ると、新発田川では、四地点（山王、上鉄橋、庚申堰、新発田川橋）すべてで環境基準（C類型 5mg/l）を超えており、水が汚れている。特に、山王、庚申堰及び新発田川橋では過去何回か20mg/lを超える状態が続いた。

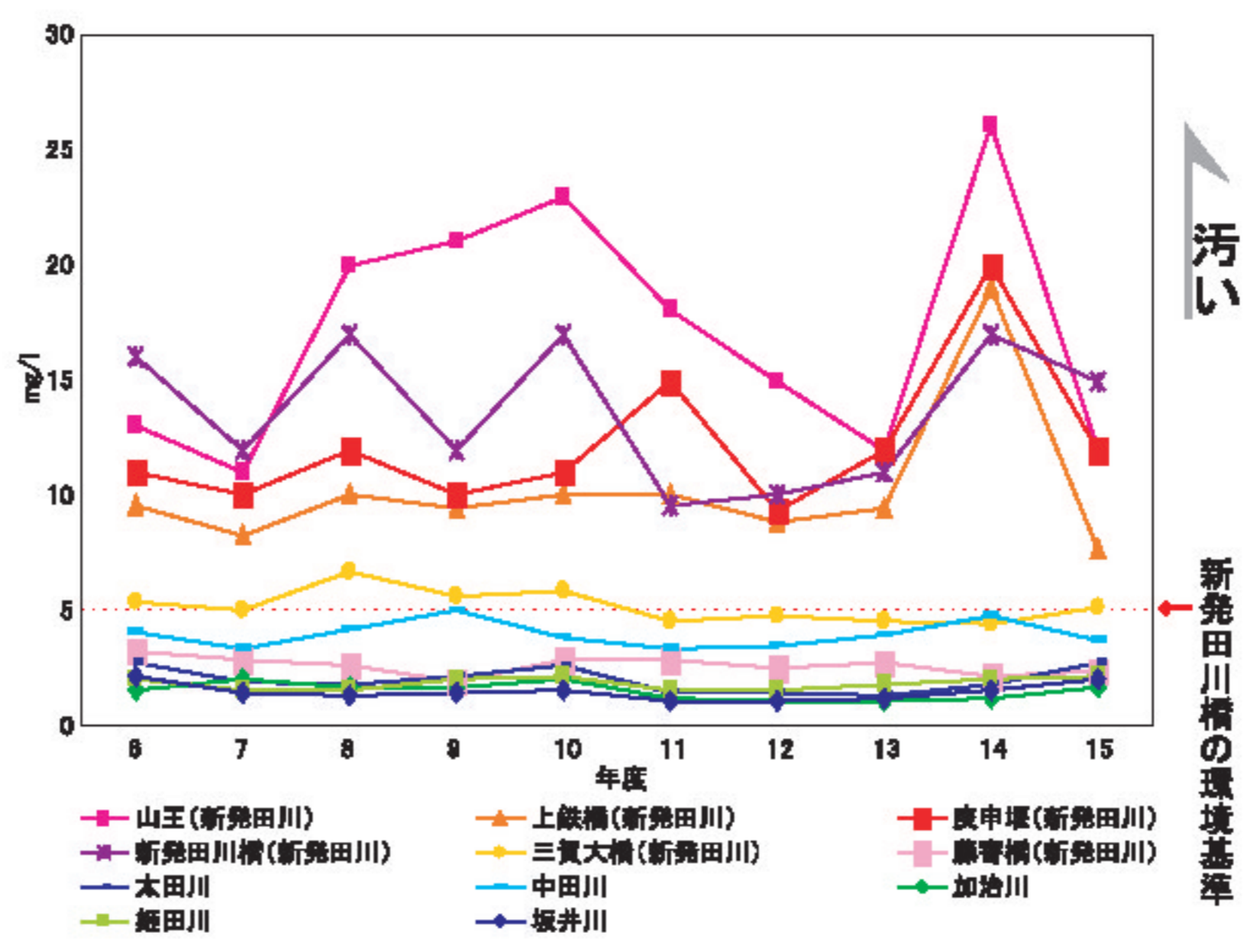
この点に関して、新発田川流域における測定結果を河川の流量とともに整理した結果、加治川から分流した新発田川の河川水は、市街地に入るとBOD値が高くなり、市街地の下流側の中田川合流点で希釈されてBOD値が低下していることが分かった。これは、明らかに市街地からの流入水、特に一般家庭などからの生活雑排水が河川水を汚濁する原因となっていることを示している。

坂井川、姫田川、加治川、太田川については、概ね環境基準（A類型 2mg/l）を満足した数値が観測されており、比較的良好な水質にあるといえる。

このように新発田川では、生活雑排水の流入による河川水の水質汚濁が進行している状況にある（汚濁負荷量の約70%が生活雑排水に起因するといわれている）。



水質測定位置図



BOD 75%値の経年変化

BOD (mg/l)	2.5以下	2.5~5	5~10	10以上
一般的表現	きれい	比較的きれい	汚れている	とても汚れている
底生生物	カワガラ類 サワガニ カワニナ ヘビトンボ	シジミ類 ヌマエビ	ヒル類	イトミミズ サカマキガイ ホンシショウバエ
魚類	イワナ ヤマメが 棲める	サケ アユが 棲める	コイ フナ類が 棲める	普通は 魚が 棲めない

参考：生活環境に係わる指標と生物の関係

◆「ラム」BOD

BODは生物化学的酸素要求量。水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量で、河川の有機汚濁を測る代表的な指標。水中に有機物が多いほどたくさんの酸素を消費する。つまり、水の汚れが大きいほど、BODの値は高くなる。環境基準では、河川の利用目的に応じて類型別に定められている。